

令和6年度 金沢MaaSコンソーシアム 第2回 総会

日時：令和6年10月31日（木）16：30～
場所：金沢市文化ホール 3階 大会議室

次 第

1. 開 会
2. 代表幹事代理挨拶
3. 新代表幹事の選出
4. 議 題
 - 〔報告〕 令和6年度事業中間報告
 - 〔発表〕 プロジェクト提案
5. 基 調 講 演
 - 福島大学教育研究院 吉田 樹 教授
 - 「持続する都市と交通に貢献するMaaSのあり方」
6. 前代表幹事退任の挨拶
7. 閉 会

令和6年度 金沢MaaSコンソーシアム 第2回総会 出席者名簿

【正会員（25企業・団体）】

企業・団体名	出席者（役職・氏名）	総会	意見交換会
IRいしかわ鉄道株式会社〔幹事〕	取締役総務企画部長	杉藤 信之	●
	総務企画課長	宮本 典子	●
	総務企画課	佐々木 英雄	●
アイパブリッシング株式会社	企画戦略部	榎田 由貴子	WEB
一般社団法人石川県タクシー協会	副会長（石川交通㈱社長）	東 寿弘	●
石川ダイハツ販売株式会社	営業本部 課長代理	田中 茂	●
株式会社ヴァル研究所	MaaS事業部	豊田 博樹	WEB
金沢エナジー株式会社	地域エネルギー企画部 リーダー	野村 泰通	●
	地域エネルギー企画部地域共生安全対策室 副主任	山中 久司	●
一般社団法人金沢市観光協会	専務理事(兼)事務局長	中坂 暢江	●
株式会社QUICK	データソリューション事業本部 副本部長	宮原 栄二	●
	データソリューション事業本部	古屋 和樹	●
株式会社計画情報研究所	取締役	北原 豪	●
	データサイエンティスト	川田 創士	●
次世代型交通システム推進協議会	一般社団法人 北陸SDGs総合研究所	武田 幸男	●
	損害保険ジャパン株式会社 金沢支店 法人支社	宮下 泰茂	●
東京海上日動火災保険株式会社	金沢支店 マーケット開発課長	久保田 祥之	●
	金沢支店 マーケット開発課 課長代理	濱田 大聖	●
株式会社ドコモ・バイクシェア	シェアリング事業部 部長	桜皮 貴史	WEB
	シェアリング事業部 第二まちづくり推進担当 課長	土谷 謙太	WEB
なるわ交通株式会社	バス事業部 営業	道下 泰臣	●
西日本ジェイアールバス株式会社〔幹事・監事〕	北陸支店長	大久保 範繁	●
西日本電信電話株式会社	北陸支店 ビジネス営業部 EPビジネス営業部門 担当部長	安東 宏志	WEB
	北陸支店 ビジネス営業部 EPビジネス営業部門 担当課長	岡田 優子	WEB
西日本旅客鉄道株式会社〔幹事〕	デジタルソリューション本部 担当部長	神田 隆	●
	鉄道マーケティング部 北陸営業部長	覺井 浩一	●
	鉄道マーケティング部 北陸営業部	高原 孝彦	●
株式会社日本海コンサルタント	社会事業本部 本部長	塩土 圭介	●
	社会事業本部計画研究室 リーダー	山村 啓一	●
BIPROGY株式会社	北陸支店長	平原 賢一	●
	ファイナンシャルサービス 第三事業部	白木 裕明	●
株式会社ホクリコム	デジタルソリューション事業部 係長	川原 康範	●
	デジタルソリューション事業部 主任	竹山 彩	●
北陸鉄道株式会社〔代表幹事〕	常務取締役	加藤 大勝	●
	企画開発部 部長	富士登 勝二	●
	企画開発部 次長	下 貴則	●
北陸電力株式会社	石川支店 総務部総務労務チーム 統括課長	浜崎 秀樹	WEB
株式会社北國銀行	カード部長執行役員	前川 治樹	●
	カード部兼北国クレジットサービス営業部長	沼田 真二	●
名鉄協商株式会社	パーキング北陸営業部 部長	白木 明人	●
	パーキング北陸営業部 マネージャー	小林 翔	●
レシップ株式会社	金沢営業所 所長	大森 正和	●
	金沢営業所 担当	上杉 洋平	●
金沢市〔代表幹事代理・事務局〕	都市政策局長	村角 薫明	●
	都市政策局交通政策監	近藤 陽介	●
	都市政策局担当次長(兼)交通政策課長	古谷 健	●
	都市政策局交通政策課担当課長	中山 哲也	●
	都市政策局交通政策課担当課長(兼)課長補佐	浅野 成貞	●
	都市政策局交通政策課係長	泉 一茂	●
	都市政策局交通政策課係長	笠間 彩	●
	都市政策局交通政策課主査	丹後 裕貴	●
	都市政策局交通政策課主査	黒枝 洋平	●
	都市政策局交通政策課主任主事	後藤 杏奈	●
総務局デジタル行政戦略課担当課長補佐(兼)係長	東崎 志伸	●	

原則、五十音順

計

54

30

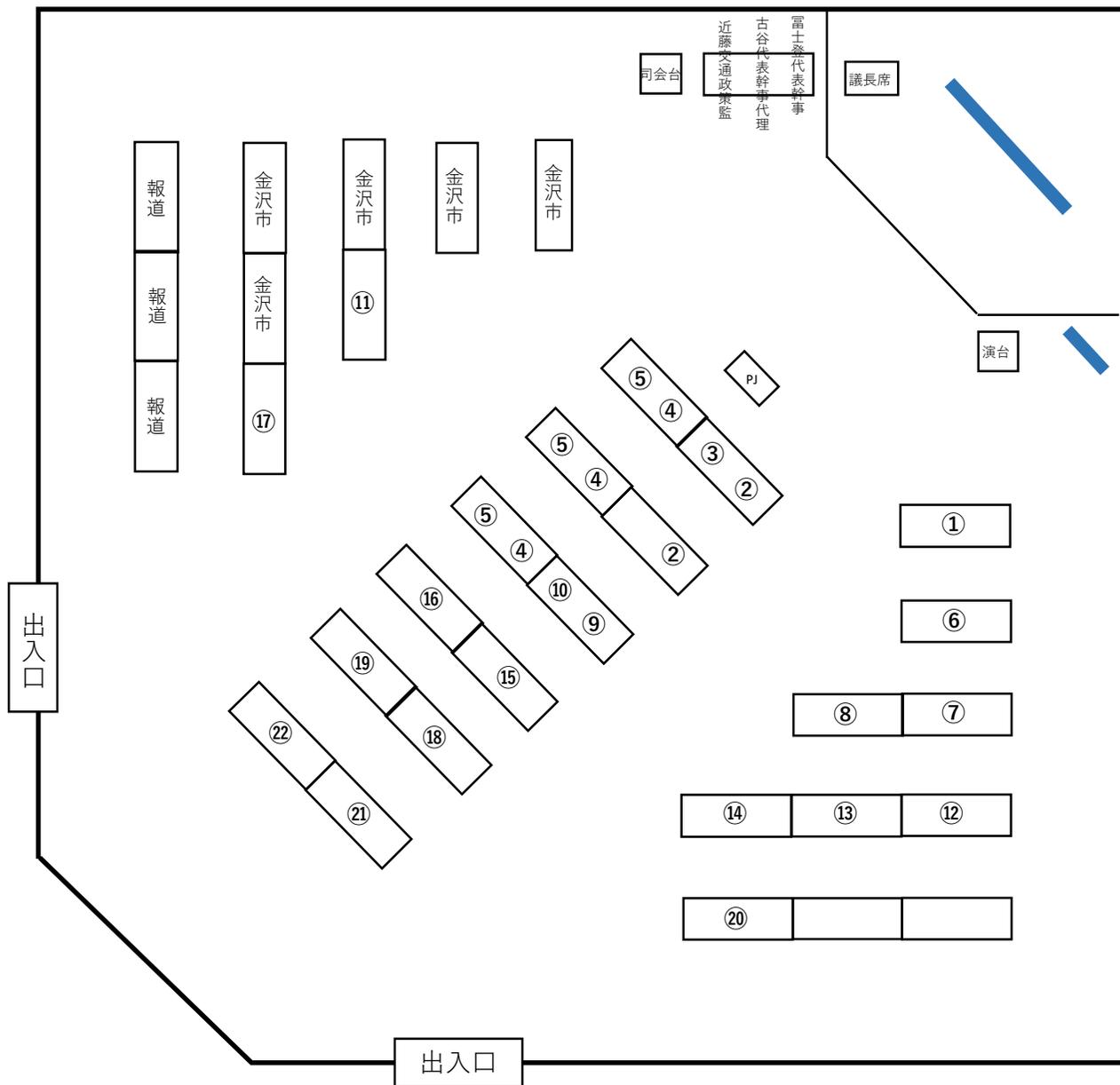
【オブザーバー】

企業・団体名	出席者（役職・氏名）	総会	意見交換会
国土交通省北陸地方整備局金沢河川国道事務所	計画課長	水野 力斗	●
国土交通省北陸信越運輸局石川運輸支局	支局長	猿谷 克幸	●
	首席運輸企画専門官	入口 伸彦	●

3

2

令和6年度 金沢MaaSコンソーシアム 第2回 総会
座席表



① 福島大学教育研究院	〔代表幹事〕 ② 北陸鉄道(株)
〔幹事/監事〕 ③ 西日本ジェイアールバス(株)	〔幹事〕 ④ 西日本旅客鉄道(株)
〔幹事〕 ⑤ IRいしかわ鉄道(株)	⑥ (一社)石川県タクシー協会
⑦ 金沢エナジー(株)	⑧ (株)QUICK
⑨ 石川ダイハツ販売(株)	⑩ (一社)金沢市観光協会
⑪ (株)計画情報研究所	⑫ 次世代型交通システム推進協議会
⑬ 東京海上日動火災保険(株)	⑭ なるわ交通(株)
⑮ (株)日本海コンサルタント	⑯ BIPROGY(株)
⑰ (株)ホクリクコム	⑱ (株)北国銀行
⑲ 名鉄協商(株)	⑳ レシップ(株)
〔オブザーバー〕 ㉑ 金沢河川国道事務所	〔オブザーバー〕 ㉒ 石川運輸支局

【報告】

令和6年度事業中間報告



①のりまっし金沢利便性・操作性向上〔部会事務局：金沢市〕

(1) 実施状況

金沢の交通コンシェルジュである「のりまっし金沢」の利便性・操作性の向上を図るため、アプリ内のデザイン・レイアウト、動作環境・起動時表示画面を改良。

〔改良点〕

- ・画面デザインを刷新
- ・画面切替（遷移）時の所要時間を短縮
- ・機能の優先順位を整理し、画面のUI・UXを改善
- ・その他

(2) 時期

令和6年10月31日 運用開始

〔TOP画面(暮らし)〕



〔TOP画面(観光)〕



〔チケット購入画面〕



②金沢まちなか交通ガイドデジタル化〔部会事務局：金沢市〕

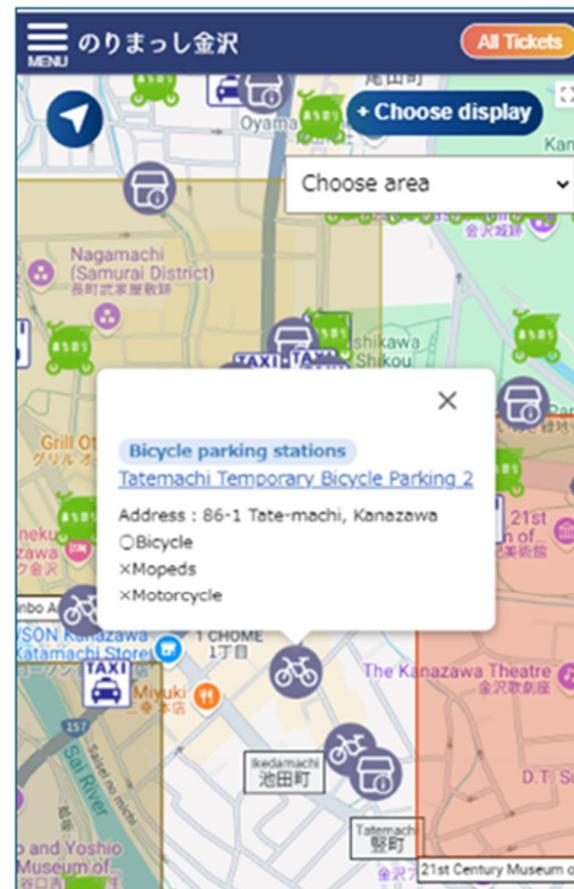
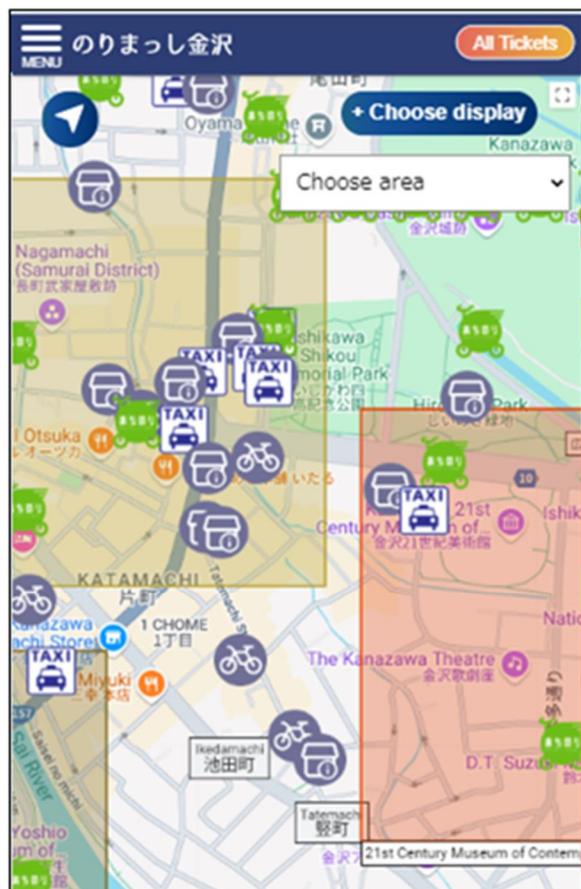
(1) 実施状況

来街者向けに紙媒体で作成・配布している「金沢まちなか交通ガイド」について、新たに追加するデジタル版6言語（フランス語、スペイン語、イタリア語、中国語（繁体字、簡体字）、韓国語）を作成中。

(2) 時期

令和6年11月末頃 運用開始（予定）

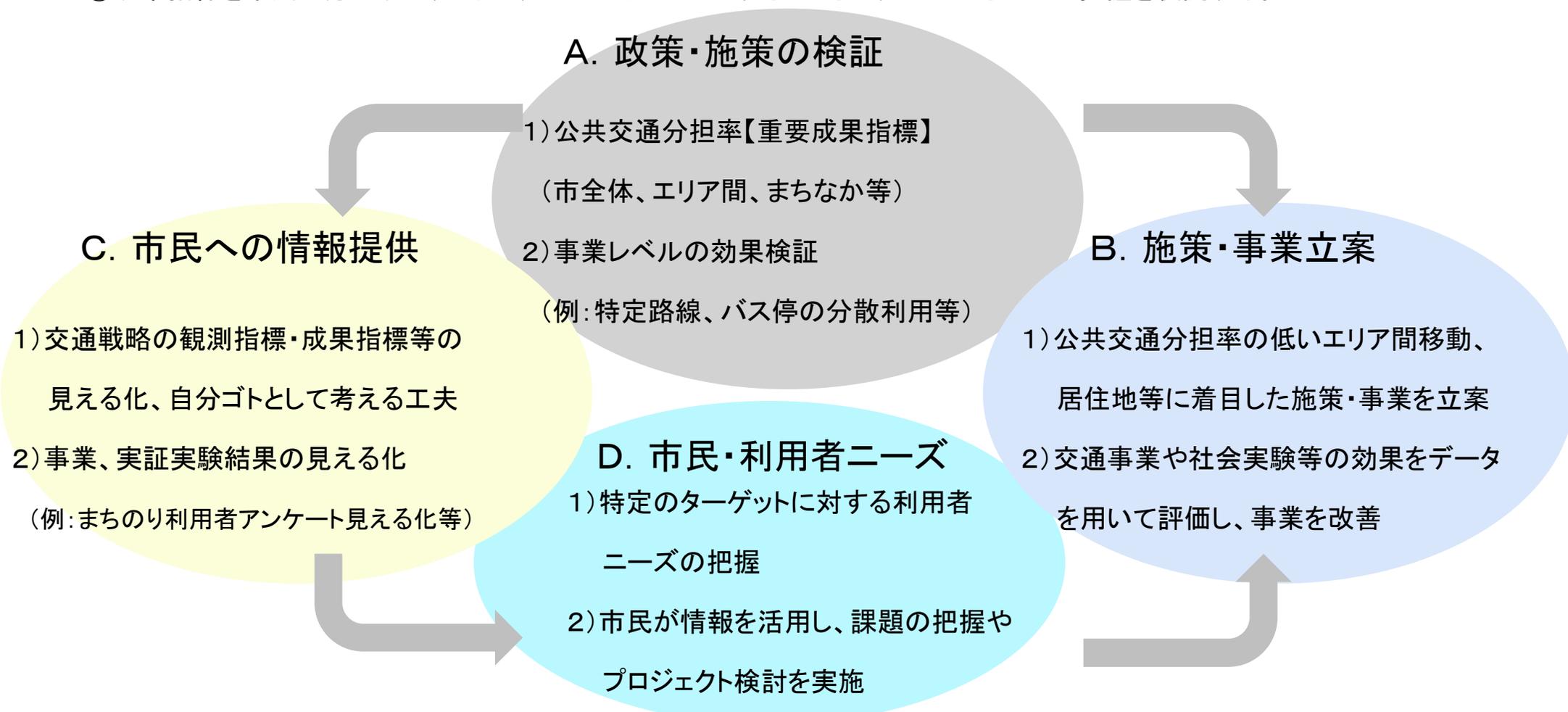
参考：金沢まちなか交通ガイド（英語版イメージ）



③交通データ活用事業 [部会事務局：株式会社QUICK]

目的 ①EBPMの考え方に基づき、データ等のエビデンスを用い、政策目的の明確化、施策・事業の検証・立案を行う。

②成果指標を市民に分かりやすく示し、コミュニケーションするとともに、DXによるニーズ把握を展開する。



目的 ①EBPMの考え方に基づき、データ等のエビデンスを用い、政策目的の明確化、施策・事業の検証・立案を行う。

②成果指標を市民に分かりやすく示し、コミュニケーションするとともに、DXによるニーズ把握を展開する。

A. 政策・施策の検証

- 1) 公共交通分担率【重要成果指標】
(市全体、エリア間、まちなか等)
- 2) 事業レベルの効果検証
(例: 特定路線、バス停の分散利用等)

1. 新規活用可能データの検証と
新たな分析手法・指標の開発

B. 施策・事業立案

- 1) 公共交通分担率の低いエリア間移動、
居住地等に着目し施策・事業を立案等
- 2) 交通事業や社会実験等の効果をデータ
を活用し分析し事業を見直す

2. 指標の見える化

C. 市民への情報提供

- 1) 交通戦略の観測指標・成果指標等の
見える化、自分ゴトとして考える工夫
- 2) 事業、実証実験結果の見える化
(例: まちのり利用者アンケート見える化等)

D. 市民・利用者ニーズ

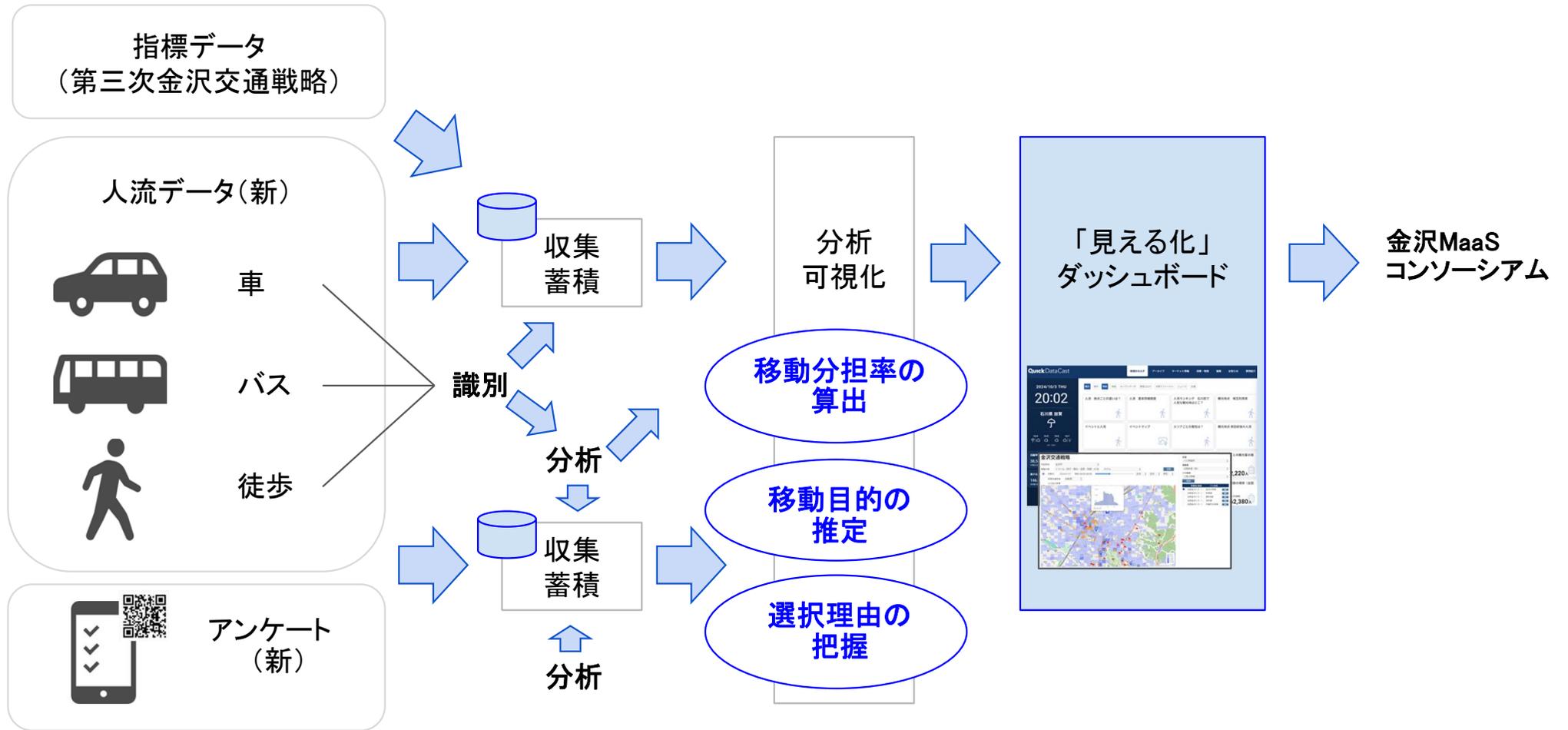
- 1) 特定のターゲットに対する利用者
ニーズの把握
- 2) 市民が情報を活用し、課題の把握や
プロジェクト検討を実施

3. 市民意見の収集

4. まちなかフリーの
利用分析

【見える化概要】

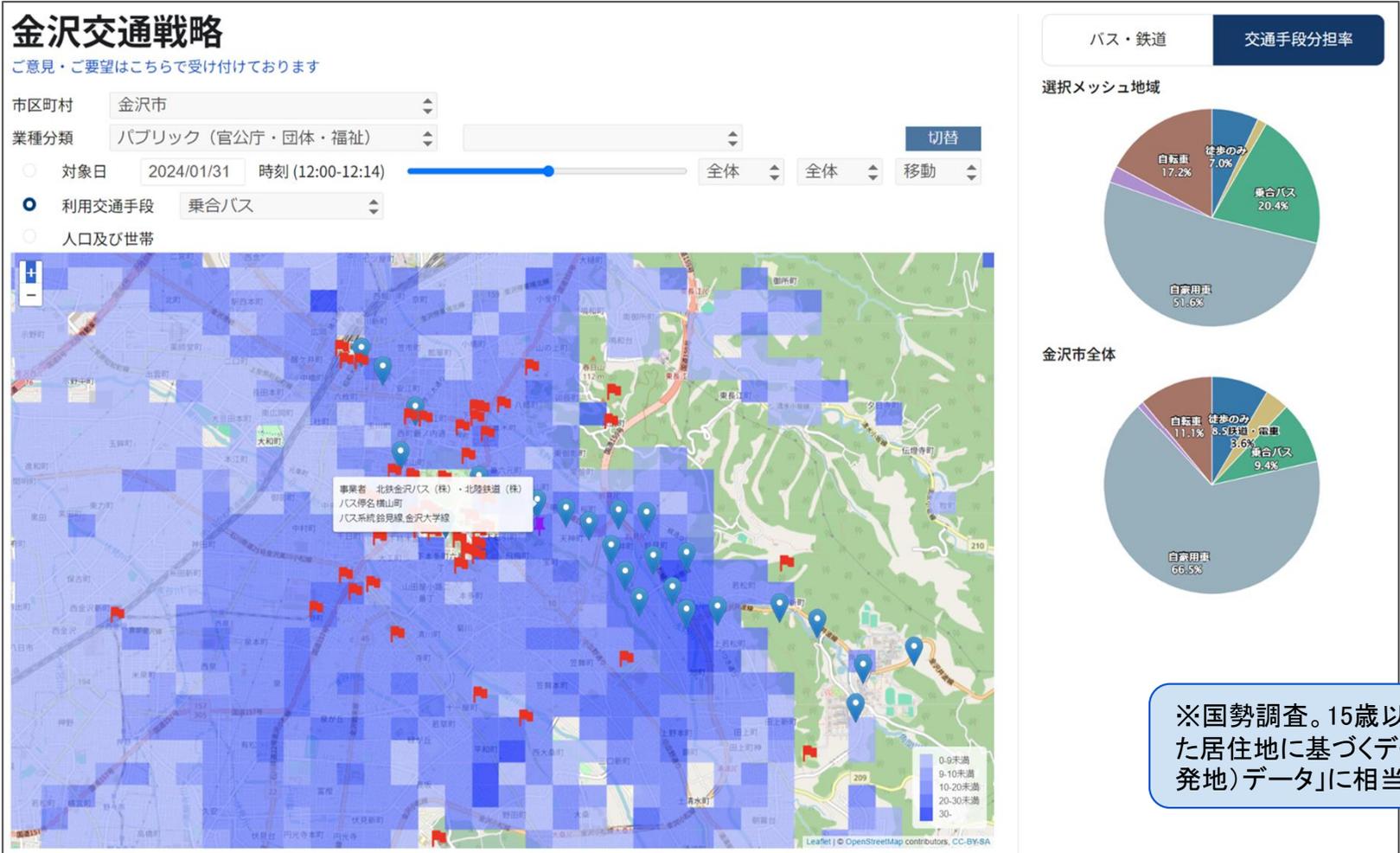
移動をはじめとする様々なデータを一元管理、可視化できるプラットフォーム上で 路線バスの乗降データやまちのりの利用データ等を重ねる。これらを用いて公共交通利用へ転換を促す施策の効果検証や新規施策を検討できるようにする。



1.新規活用可能データの検証と 新たな分析手法・指標の開発

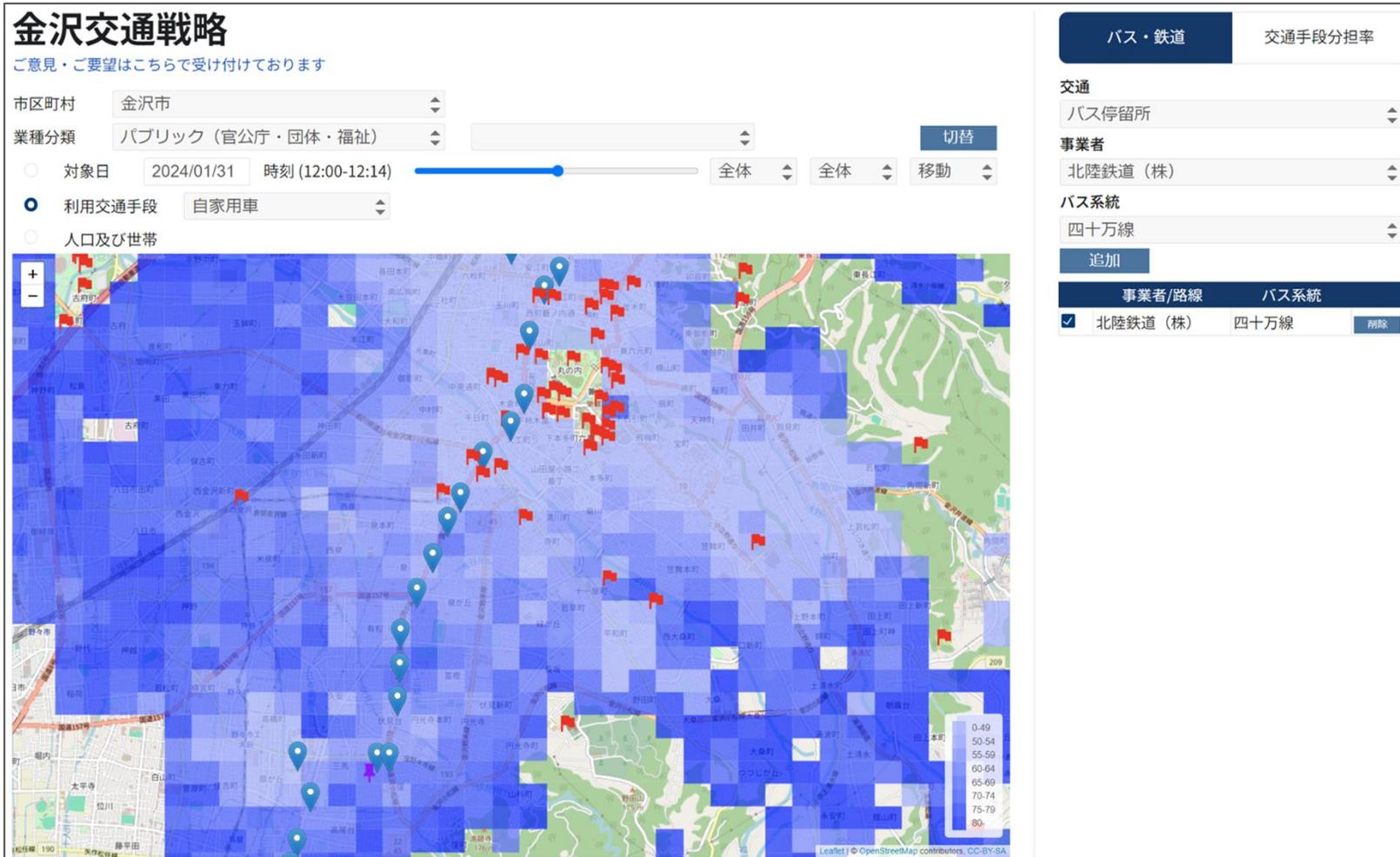
【1.新規活用可能データの検証と新たな分析手法・指標の開発②】

オープンデータの可視化。国勢調査の利用交通手段を組み合わせる表示。



【1.新規活用可能データの検証と新たな分析手法・指標の開発③】

オープンデータの可視化。国勢調査の利用交通手段とバス路線図を重ね合わせて表示。



可視化対象データ

- ・バス路線
- ・鉄道
- ・利用交通手段「自家用車」(250mメッシュ)

参考

- バス停: 青ピン
- 観光地: 旗アイコン

【1.新規活用可能データの検証と新たな分析手法・指標の開発④】

オープンデータと事業所、観光地データに人流データ(GPSによる滞在・移動人口データ)を重ね合わせて可視化。

金沢交通戦略

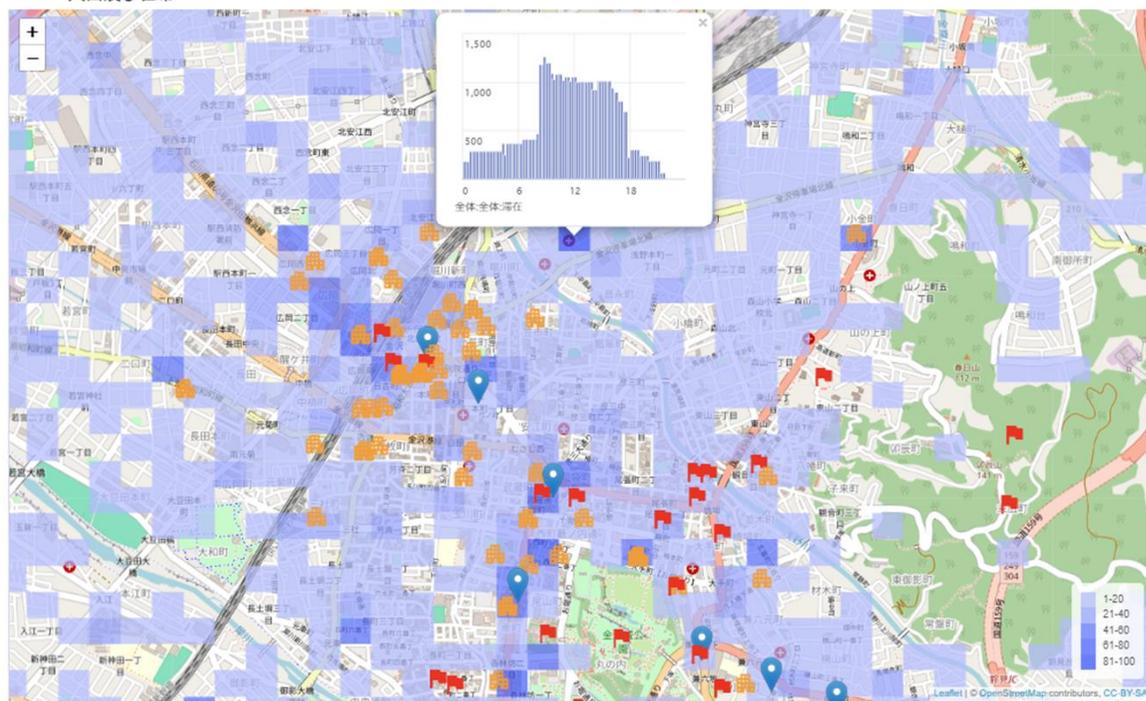
市区町村

業種分類

対象日 時刻 (08:45-08:59) 全体

利用交通手段

人口及び世帯



交通

事業者

バス系統

事業者/路線	バス系統	
<input checked="" type="checkbox"/> 北鉄金沢バス(…)	金沢大学線	<input type="button" value="削除"/>
<input type="checkbox"/> 北鉄金沢バス(…)	鈴見線	<input type="button" value="削除"/>
<input type="checkbox"/> 北鉄金沢バス(…)	錦町B線	<input type="button" value="削除"/>
<input type="checkbox"/> 北鉄金沢バス(…)	寺町線	<input type="button" value="削除"/>
<input type="checkbox"/> 北鉄金沢バス(…)	木越円光寺線	<input type="button" value="削除"/>

可視化対象データ

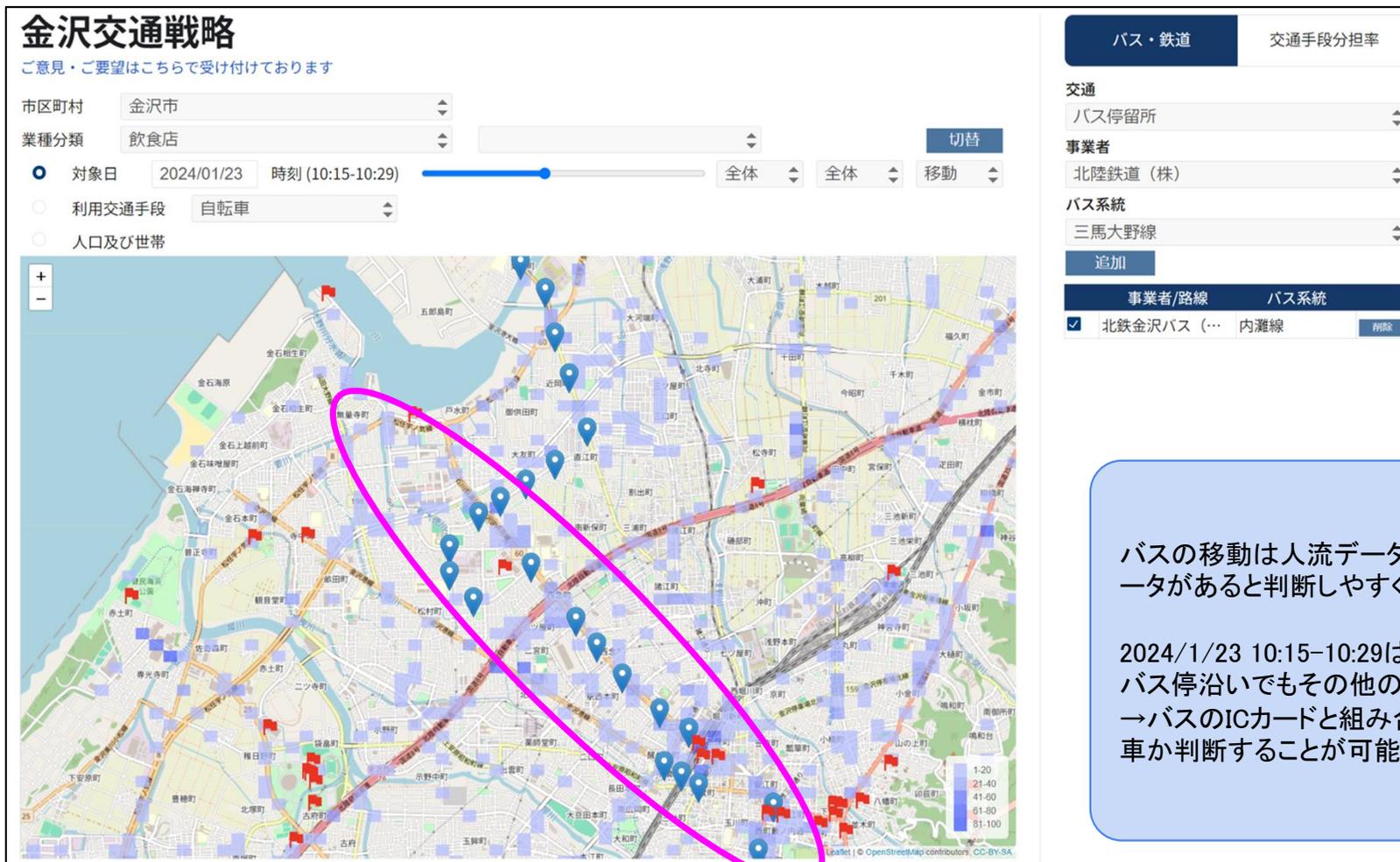
- ・バス路線
- ・鉄道
- ・滞在・移動人口※
(125mメッシュ、15分毎)
- ・事業所(電話帳)
- ・観光地(独自収集)

※当該事業への有効性を確認するため、KDDIの滞在・移動人口データ(Location Analyzer)を試験的に投入。バス路線や事業所、観光地データと重ねて表示。

- ・期間は2023年12月1日～2024年1月31日。
- ・15分毎の滞在・移動人口を125mメッシュで確認可能

【1.新規活用可能データの検証と新たな分析手法・指標の開発⑤】

人流データ(GPSによる滞在・移動人口データ)とバス停・バス路線データからのインサイト。



可視化対象データ

・バス路線

・移動人口

(125mメッシュ、15分毎)

バスの移動は人流データだけでは判断しにくい。バスの乗降データがあると判断しやすくなると考えられる。

2024/1/23 10:15-10:29は内灘線のバスは運航していないので、バス停沿いでもその他の自動車の移動データと考えられる。
→バスのICカードと組み合わせることで、バスかその他の自動車か判断することが可能になる。

【 1.新規活用可能データの検証と新たな分析手法・指標の開発⑥】

■今後の取組

北陸鉄道様にご協力いただき、ICカードによるODを取得し、自動車移動とバス移動の分解を試みる。簡易PT調査結果との照合を行い、妥当性の検証を行う予定である。

本取組の目的であるデータを活用した交通施策の検討材料や、市民への提示(見える化)による興味関心の向上に繋げていきたい。

2.指標の見える化

【2.指標の見える化①】

部会メンバーと観測指標、成果指標の可視化コンテンツを検討・協議。

【基本方針の評価の考え方】

1. 持続可能な交通ネットワークの形成 ～地域の実情に応じた公共交通の充実～

持続可能な交通ネットワークの形成に向け、公共交通の分担率を高め、公共交通重要路線沿線の人口密度を維持し、公共交通の利用者をコロナ禍以前に回復させることを目指すとともに、運行の継続に向けた多様な支援を行い、公共交通の持続性を確保します。

【関連する成果指標】
公共交通の利用者数の増加、市内の公共交通分担率の上昇、居住誘導区域の人口密度の維持、公共交通の収支率の改善、公的資金投入額の維持、バス・鉄道運転手の採用者数の増加

2. 交通機能の連携強化 ～便利で円滑な交通の実現～

駅・停留所やモビリティハブなどの交通結節機能を高めるとともに、多様な交通をシームレスに利用できるよう金沢MaaSの取組をさらに拡充し、市民の移動に関する満足度や公共交通分担率を高め、まちなかや居住誘導区域では、移動の際に徒歩・自転車・公共交通が選ばれやすい交通環境を目指します。

【関連する成果指標】
住まいの地区の移動満足度、市内の公共交通分担率の上昇、公共交通の利用者数の増加

3. 交通利用環境の向上 ～快適で安全な利用環境づくり～

歩行者・自転車・バスの利用環境の充実を図るとともに、自家用車やタクシー、荷捌き車両などの都市活動に必要な移動の円滑化も併せて行うことで、市民の移動に関する満足度や公共交通分担率を高め、便利で快適に移動できる交通利用環境を目指します。

【関連する成果指標】
住まいの地区の移動満足度の上昇、市内の公共交通分担率の上昇、公共交通の利用者数の増加

4. 人が中心となるまちなかの形成 ～歴史と文化が薫る歩きたくなる空間づくり～

歩行者・自転車・公共交通優先の交通環境をさらに充実させるとともに、市民も来訪者もまちなかに来たくなるまちづくりを官民連携で進め、まちなかの公共交通分担率や歩行者通行量の増加により、人が中心となるまちなかの形成を目指します。

【関連する成果指標】
まちなかの歩行者・自転車・公共交通分担率の上昇、まちなかの歩行者通行量の増加

5. 交通行動の転換 ～公共交通の利用促進と普及啓発～

子どもから高齢者まで、様々なモビリティマネジメントの取組や積極的な情報発信などにより市内の公共交通分担率を高め、過度に自家用車に依存する生活から、目的や場面等に応じて徒歩・自転車・公共交通を適度に利用する生活への転換を目指します。

【関連する成果指標】
市内の公共交通分担率の上昇、公共交通の利用者数の増加、居住誘導区域の人口密度の維持

【観測指標(アウトプット)】

公共交通平均所要時間(有松→武蔵区間)
■現況値:16分 →短縮を目指す

公共交通のカバ率
■現況値:84% →維持・拡充を目指す

公共交通重要路線1時間当たり便数
■現況値:1時間に1本以上 →維持・増加を目指す

運転手確保の支援事業実施数
■現況値:4件/年 →維持・増加を目指す

モビリティハブの整備数
■現況値:0箇所 →増加を目指す

パーク&ライド利用者数・設置台数
■現況値:613人、1,296台 →増加を目指す

金沢MaaS取組件数
■現況値:5件/年 →維持・増加を目指す

歩けるまちづくり協定地区数
■現況値:6地区 →維持・増加を目指す

交通事故死者数・重傷者数
■現況値:死者7人、重傷者95人
→死者7人以下、重傷者90人以下を目指す

自転車走行指導帯の整備延長
■現況値:40.4km →60km以上(R11)

モビリティマネジメント事業の実施件数
■現況値:3件/年 →維持・増加を目指す

路線バス等への環境配慮車両の導入台数
■現況値:0台 →増加を目指す

【成果指標(アウトカム)】 (詳細は参考資料3を参照)

公共交通の利用者数^{※1}【重要成果指標^{※2}】
■コロナ禍前の利用者数まで回復を目指す
現況(R3) 8.6万人/日 → 目標(R9) 12.3万人/日以上
→ 長期目標(R14) 13.0万人/日以上

市内の公共交通分担率(平日)^{※1}【重要成果指標^{※2}】
■市全体の公共交通の分担率の上昇を目指す
現況(H30) 9% → 目標(R9) 9%以上
→ 長期目標(R14) 10%以上

住まいの地区の移動満足度
■移動満足度の上昇を目指す
現況(R3) 26% → 目標(R9) 30%以上

まちなかの歩行者・自転車・公共交通分担率(平日)
■歩行者・自転車・公共交通分担率の上昇を目指す
現況(H30) 55% → 目標(R9) 55%以上

まちなかの歩行者通行量(休日)
■休日の主要箇所における通行量の増加を目指す
現況(R3) 7.6万人/日 → 目標(R9) 12.0万人/日以上

まちなか区域/居住誘導区域の人口密度^{※3}
■公共交通の利用環境や居住環境をさらに高め、人口減少下においても現状維持を目指す
(まちなか区域) 現況(H27) 70.3人/ha → 目標(R22) 70.3人/ha
(居住誘導区域) 現況(H27) 62.9人/ha → 目標(R22) 62.9人/ha

公共交通の収支率^{※1}
■利用を促進し収支率を高め、持続的な運行を目指す
(都市圏全体) 現況(R3) 80% → 目標(R9) 100%以上
(ふらっとバス) 現況(R3) 40% → 目標(R9) 40%以上

公共交通の公的資金投入額^{※1}
■必要な行政負担を確保する
現況(R3) 4.2億円/年 → 目標(R5-9) 平均2.3億円/年
程度を確保

バス・鉄道運転手の採用者数(石川中央都市圏全体)^{※1}
■採用者数の増加を目指す
現況(R3) 11人/年 → 目標(R5-9) 平均19人/年以上

注1 〇の指標は国が定めた指標に準拠する(重要指標)
※1 石川中央都市圏(石川・富山・福井)の公共交通機関(H27)までの目標を設定
※2 第2次金沢交通戦略の考え方を踏襲し、アフターコロナを見据えた長期的な目標を設定
※3 金沢市集約都市形成計画(H29.3策定)の目標と整合を図り設定

ダッシュボードでの公開レイアウト(案)

観測指標、成果指標ごとに基準値、現状値、目標値を表示する。
目標を達成しているかどうか分かりやすく可視化する。

基本方針	具体的な施策	最近の取組状況	指標			備考	
			基準値	現状値	目標値		
持続可能な交通ネットワークの形成	公共交通重要路線の定時性の確保	都心軸におけるバスレーン拡大社会実験(令和5年度)	公共交通平均所要時間(有松→武蔵区間)	16分	●●分	●●分	令和6年度は期間を2か月に延長し実験予定

【2.指標の見える化②】

第三次金沢交通戦略の観測指標や成果指標を中心に「見える化」を検討。

- A: 持続可能な交通ネットワークの形成
- B: 交通機能の連携強化
- C: 交通利用環境の向上
- D: 人が中心となるまちなかの形成
- E: 交通行動の転換

成果指標(アウトカム)	基本方針				
	A	B	C	D	E
公共交通の利用者数	○	○	○		○
市内の公共交通分担率	○	○	○	○	○
住まいの地区の移動満足度		○	○		
まちなかの歩行者・自転車・公共交通分担率				○	
まちなかの歩行者交通量				○	
まちなか区域／居住誘導区域の人口密度	○				○
公共交通の収支率	○				
公共交通の公的資金投入額	○				
バス・鉄道運転手の採用者数	○				

観測指標(アウトプット)	基本方針				
	A	B	C	D	E
公共交通平均所要時間	○		○		
公共交通のカバー率	○				
公共交通重要路線1時間あたり便数	○	○			
運転手確保の支援事業実施数	○				
モビリティハブの整備数	○	○			
パーク&ライド利用者数・設置台数	○	○		○	
金沢MaaS取組件数		○			
歩けるまちづくり地区協定数				○	
交通事故死者数・重傷者数			○	○	
自転車走行指導帯の整備延長			○	○	
モビリティマネジメント事業の実施件数					○
路線バス等への環境対応車両の導入台数					○

【2.指標の見える化③】

各々の観測指標、成果指標ごとに基準値、現状地、目標値を表示する。目標を達成しているかどうか分かりやすく可視化する。

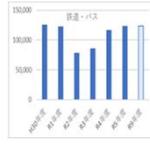
金沢市さま案

基本方針	具体的な施策	最近の取組状況	観測指標(アウトプット)				備考
			観測指標(アウトプット)	基準値	現状値	目標値	
持続可能な交通ネットワークの形成	公共交通重要路線の定時性の確保	都心軸におけるバスレーン拡大社会実験(令和5年度)	公共交通平均所要時間(有松→武蔵区間)	16分	●●分	●●分	令和6年度は期間を2か月に延長し実験予定

基本方針	具体的な施策	最近の取組状況	観測指標(アウトプット)				備考
			観測指標(アウトプット)	基準値	現状値	目標値	
持続可能な交通ネットワークの形成	公共交通重要路線の利便性向上	都心軸におけるバスレーン拡大社会実験(令和5年度)	公共交通平均所要時間(有松→武蔵区間)	16分	16分	R5	短縮を目指す 令和6年度は期間を2か月に延長し実験予定
			公共交通重要路線1時間あたり便数	1本以上	1本以上	R5	維持・増加を目指す
		モビリティハブの整備	モビリティハブの整備数	0	0	R5	増加を目指す
	鉄道線の利用促進・利便性向上		パーク&ライド利用者数・設置台数	613人(1296台)	680人(1373台)	R5	増加を目指す
	公共シェアサイクル「まちなり」の充実	モビリティハブの整備	モビリティハブの整備数	0	0	R5	増加を目指す
	公共交通の担い手の確保		運転手確保の支援事業実施数	4件	9件	R5	維持・増加を目指す
	石川中央都市圏等の公共交通ネットワークの充実		公共交通のカバー率	84%	84%	R6	維持・拡充を目指す

【2.指標の見える化③】

観測指標と成果指標ごとにパネルを一覧で表示。

観測指標		成果指標			
すべて	持続可能な交通ネットワークの形成	交通機能の連携強化	交通利用環境の向上	人が中心となるまちなかの形成	交通行動の転換
公共交通の利用者数 R3 86,073人/日 R5 123,452人/日 ↑ 目標値 123,000人/日 長期目標 130,000人/日 		まちなかの歩行者交通量 R3 81% R5 99% ↑ 目標値 100% 指標値の時系列チャート		公共交通(ふらっとバス)の収支率 R3 29% R5 37% ↑ 目標値 44% 指標値の時系列チャート	
市内の公共交通分担率 R3 10% R5 — 目標値 9%以上 長期目標 10%以上 指標値の時系列チャート		まちなか区域の人口密度 R2 66.7人/ha R5 — 目標値 70.3人/ha 指標値の時系列チャート		公共交通の公的資金投入額 R3 4.2億円 R5 4.1億円 ↓ 目標値 2.3億円 指標値の時系列チャート	
住まいの地区の移動満足度 R3 26% R6 — 目標値 30%以上 指標値の時系列チャート		居住誘導区域の人口密度 R2 61.6人/ha R5 — 目標値 62.9人/ha 指標値の時系列チャート		バス・鉄道運転手の採用者 R3 13人 R5 28人 ↑ R5~R9 19人 指標値の時系列チャート	
まちなかの歩行者・自転車・公共交通分担率 H30 55% R5 — 目標値 55%以上 指標値の時系列チャート		公共交通(都市圏)の収支率 R3 81% R5 99% ↑ 目標値 100% 指標値の時系列チャート			

3.市民意見の収集

【3.市民意見の収集】

子育て世代を対象にアンケート調査を実施し、公共交通利用の満足度などをリアルタイムに集計。

■目的

子育て環境向上のため、子育て世代の移動状況や公共交通に関する満足度、公共交通の不満点や利用促進への方策を把握する

■概要

子育て世帯の利用する市の施設に、二次元コード付きのアンケートを掲示してもらい、市民ニーズの収集及びリアルタイム集計、可視化を実施する予定。

■対象施設

子育て施設、児童館、図書館等50施設以上に設置

■把握する項目

- ・属性
- ・バス・鉄道の利用状況
- ・外出の手段と目的
- ・満足度
- ・公共交通の不満点や利用促進のための有効な施策等

金沢のまち、もっと便利に！
あなたの声で、未来の交通が変わります



いつも金沢の公共交通をご利用いただきありがとうございます。
このアンケートは、あなたが普段どんなふうに移動しているのか、バスや電車についてどんなことを思っているのか、あなたの貴重な意見をもとに、もっと便利で使いやすいバスや電車、そして、みんなが笑顔になれる金沢のまちづくりを目指します。



アンケートは5分ほどで終わりますので、ぜひご協力をお願いします！



主催：金沢MaaSコンソーシアム（金沢市交通政策課内）

金沢市 公共交通の利便性向上のためのアンケート

[Google にログインすると作業内容を保存できます。詳細](#)

* 必須の質問です

公共交通・交通手段等について

自動車について

自動車は保有していますか*

自分の自動車を所有

家族共有の自動車を所有

家庭で自動車を所有していない

バス停について

ご自宅の最も近いバス停を知っていますか*

知っている

場所は分かるが名称が分からない

バス停がどこにあるか知らない

戻る 次へ フォームをクリア

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

【3.市民意見の収集】

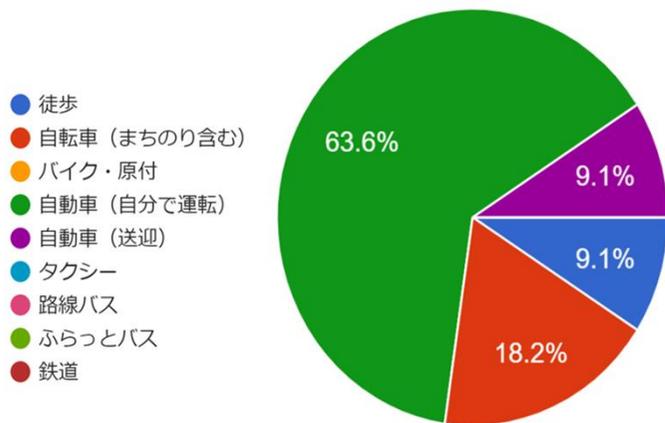
子育て世代を対象にアンケート調査を実施し、公共交通利用の満足度などをリアルタイムに集計。

アンケート結果(10月24日時点、抜粋)

- 子育て世代は自動車(運転)で外出することが多い
- 主な交通手段を使う理由として、「早く行けるから」「時間通りに行けるから」と回答する人が多い

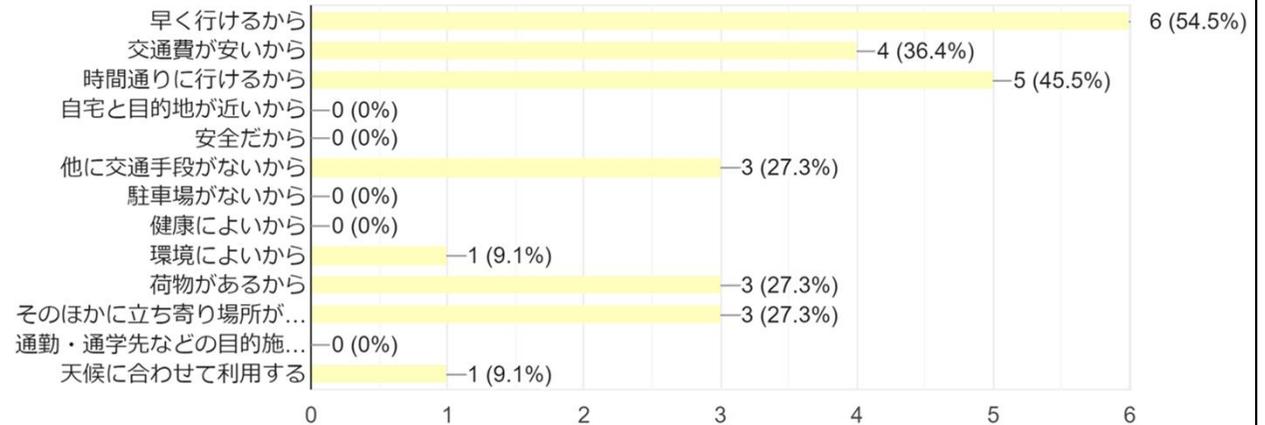
外出時の主な交通手段は何ですか

11件の回答



主な交通手段を使う理由は何ですか(最大3つまで)

11件の回答

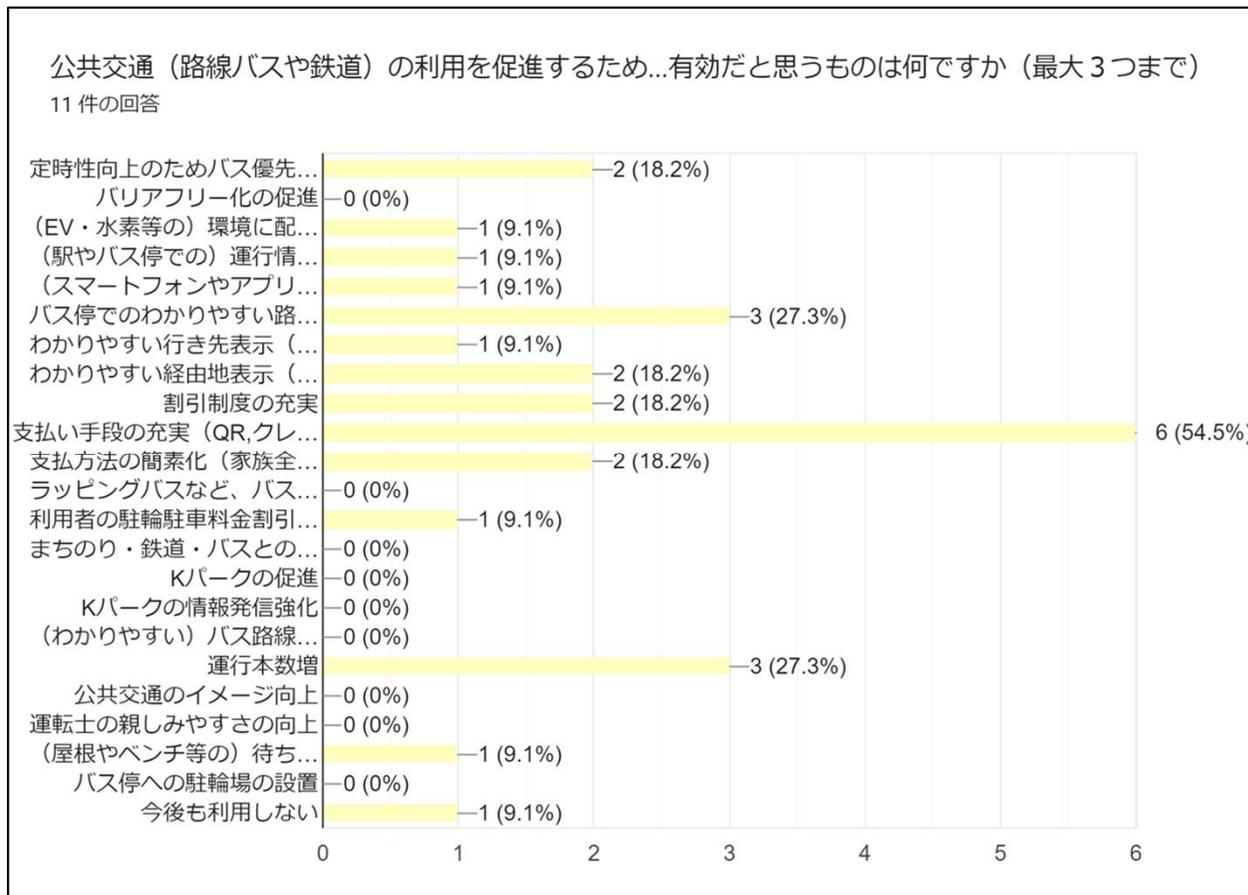


【3.市民意見の収集】

子育て世代を対象にアンケート調査を実施し、公共交通利用の満足度などをリアルタイムに集計。

アンケート結果(10月24日時点、抜粋)

- 公共交通の利用を促進するためには、子育て世代は「支払い手段の充実(QR、クレジットカード、〇〇PAY等)」が有効と思っている人が多い



④石川線・バス等乗継円滑化実験〔部会事務局：北陸鉄道株式会社〕

(1) 実施状況

北陸鉄道石川線について、令和4年度に実施した沿線住民への需要調査の結果により、運賃を現行よりも低価格に設定することで需要が大きく増加する可能性が明らかになったことから、沿線の自治体（金沢市、白山市及び野々市市）と連携し、石川線沿線～片町・香林坊・武蔵ヶ辻・金沢駅の間乗継利用が最大5割引、かつ、指定区間内が8時間乗り降り自由となる企画乗車券の実験を実施。

1. 石川線－金沢まちなかマル得きっぷ

（野町駅を乗り継ぎ拠点とし、石川線各駅と金沢駅・まちなか方面との間を利用する方）

区間：石川線各駅－片町・香林坊・武蔵ヶ辻・金沢駅間のバス（野町駅で乗り換え）

時間：利用開始から8時間（区間内乗り降り自由）

① 石川線－金沢まちなかマル得きっぷ

・区間：石川線各駅－片町・香林坊・武蔵ヶ辻・金沢駅までのバス（野町駅で乗り換え）

・時間：利用開始から8時間（区間内乗り降り自由）
※利用者は購入時に区間を選択

石川線－金沢まちなかマル得きっぷ		※割引前の運賃	
香林坊・金沢駅等	← 西泉～新西金沢	500円	820円～840円
	← 押野～野々市工大前	550円	900円～1,040円
	← 馬替～四十万	650円	1,060円～1,300円
	← 陽羽里～鶴来	750円	1,340円～1,500円

※おとな運賃の例



2. 石川線・I R西金半額きっぷ

（西金沢駅を乗り継ぎ拠点とし、石川線各駅と金沢駅の間を利用する方）

区間：石川線各駅－金沢駅（西金沢駅で乗り換え）

時間：利用開始から8時間（区間内乗り降り自由）

② 石川線・I R西金半額きっぷ

・区間：石川線各駅－西金沢駅－金沢駅

・時間：利用開始から8時間（区間内乗り降り自由）
※利用者は購入時に区間を選択

石川線・I R西金半額きっぷ		※割引前の運賃	
金沢駅	← 野町	430円	860円
	← 西泉～野々市	420円	840円
	← 野々市工大前～額住宅前	510円	1,020円
	← 乙丸	590円	1,180円
	← 四十万～道法寺	660円	1,320円
	← 井口～日御子	710円	1,420円
	← 鶴来	760円	1,520円

※おとな運賃の例



(2) 利用状況（令和6年9月末時点）

利用駅	利用枚数	
	石川線－金沢まちなかマル得きっぷ	石川線・I R 西金半額きっぷ
野町	—	34枚
西泉	22枚	0枚
新西金沢	46枚	—
押野	2枚	8枚
野々市	43枚	75枚
野々市工大前	92枚	47枚
馬替	86枚	137枚
額住宅前	56枚	78枚
乙丸	135枚	90枚
四十万	181枚	138枚
陽羽里	16枚	10枚
曾谷	14枚	23枚
道法寺	48枚	28枚
井口	39枚	207枚
小柳	3枚	16枚
日御子	18枚	13枚
鶴来	635枚	278枚
計	1,436枚	1,182枚

※昨年度の同時期（令和5年9月末時点）に比べ、石川線－金沢まちなかマル得きっぷは659枚→1,436枚で約2.2倍、石川線・I R 西金半額きっぷは昨年度（新西金沢駅マル得半額きっぷ）の411枚→1,182枚で約2.9倍に増加

⑤のりまっし金沢デジタル乗車券の普及・促進〔部会事務局：北陸鉄道株式会社〕

(1) 実施状況

北陸鉄道が導入する新たなキャッシュレス乗車システムでは、デジタル乗車券の二次元コード表示による乗降判定機能を有しており、令和5年度末を皮切りに順次作業を進めており、今後令和6年度末に導入予定。

それに合わせ、のりまっし金沢デジタル乗車券の二次元コード対応（令和7年度予定）のほか、デジタル乗車券の更なる利用促進を図るために当該乗車券の市民への普及・促進の取組を引き続き検討する。

⑥コンソーシアムの運営

- ・令和6年度第1回総会、意見交換会の開催（5月31日）
- ・のりまっし金沢の利用状況

(1) 会員数

区分	R6. 9. 30現在	R6. 3. 31現在	増加率
市内会員数	14,377人	11,998人	120%
県内会員数	3,442人	2,553人	135%
県外会員数	71,920人	58,147人	124%
国外会員数	2,107人	1,257人	168%
計	91,846人	73,955人	124%

(2) ネイティブアプリDL数

区分	R6. 9. 30現在	R6. 3. 31現在	増加率
Android	50,241件	41,774件	120%
iOS	99,200件	86,400件	115%
計	149,441件	128,174件	117%



(3) デジタル乗車券販売枚数

乗車券名	4月～9月			
	令和6年度		令和5年度	備考
	デジタル乗車券 販売枚数	対前年比	デジタル乗車券 販売枚数	
金沢市内1日フリー乗車券	14,529枚	73%	19,781枚	R3.10～
鉄道全線1日フリー乗車券	104枚	81%	129枚	R4.1～
土日祝限定1日フリーエコきっぷ (石川線)	456枚	140%	326枚	R4.1～
土日祝限定1日フリーエコきっぷ (浅野川線)	369枚	116%	319枚	R4.1～
石川線－金沢まちなかマル得きっぷ	1,436枚	218%	659枚	R5.5～
石川線・I R西金半額きっぷ (※1)	1,182枚	288%	411枚	R5.5～
金沢ふらっとバスデジタル回数券	616枚	100%	619枚	R4.10～
小松空港リムジンバスデジタル乗車券	9,237枚	121%	7,654枚	R4.12～
金石・大野周遊シャトルバスデジタル乗車券	21枚	37%	57枚	7～9月(R5) 9月(R6)

※1 令和5年度は「新西金沢駅マル得半額きっぷ」

※2 上記のほか、小松基地航空祭シャトルバスデジタル乗車券(9月23日)を販売

【発表】

プロジェクト提案



提案① のりまっし金沢とまちのりのAPI連携 [提案者：金沢市]

(概要)

「のりまっし金沢」とまちのりとのAPI連携を行い、バスの1日フリー乗車券とまちのりの1日パス等を併せて購入できるようなサービスを提供する。また、将来的にはサブスク的（「まちのり+バス」）に利用することを想定したシステムの構築について議論する。

(得られる効果)

それぞれのシステムごとに料金を支払うことなく、一度の導入操作で購入することで利用者の増加及び利便性向上を図る。

(その他)

今後1カ月単位で鉄道・バス・まちのりが追加料金なしで利用できるなどのサービス提供を関係者で協議していく



のりまっし金沢とまちのりのAPI連携部会規程

(趣旨)

第1条 この規程は、金沢M a a Sコンソーシアム規約（以下「規約」という。）第13条の規定に基づき、金沢M a a Sコンソーシアム（以下「コンソーシアム」という。）として検討するプロジェクト（以下「プロジェクト」という。）の作業部会に関し、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 のりまっし金沢とまちのりのAPI連携部会（以下「本部会」という。）は、コンソーシアムが今後優先して検討すべき事項のうち、A公共交通利便性の向上に関し検討することを目的とする。

(検討事項)

第3条 本部会は、次に掲げる事項を検討する。

- (1) のりまっし金沢とまちのりのAPI連携に関すること。
- (2) 上記のほか、「A公共交通利便性の向上」に関し、本部会が必要と認める事項

(組織)

第4条 本部会は、部会長及び部会員で組織する。

- 2 部会長は、規約第13条第3項の規定に基づき、金沢市都市政策局交通政策課長をもって充てる。
- 3 部会事務局は、金沢市都市政策局交通政策課に置く。
- 4 部会事務局に部会事務局長を置き、金沢市都市政策局交通政策課長をもって充てる。
- 5 部会員は、金沢市、北陸鉄道(株)、(株)ホクリクコム、(株)日本海コンサルタント及び(株)ドコモ・バイクシェアで構成する。

(所掌事務)

第5条 部会長は規約第13条第3項各号に規定する事務を所掌する。

- 2 部会事務局長は、次に掲げる事項を所掌する。
 - (1) 会議運営事務及び庶務に関すること。
 - (2) 部会事務局の運営に関すること。
 - (3) 前2号に掲げるもののほか、本部会の運営に関し必要な事項

(報告)

第6条 規約第13条第8項の規定に基づく幹事会から報告の要請があった場合には、規約同条第9項に基づき、速やかに報告しなければならない。

附 則

この規程は、令和6年10月3日から施行する。

提案② AIチャットボットによる金沢来訪者への案内強化策について

〔提案者：北陸鉄道株〕

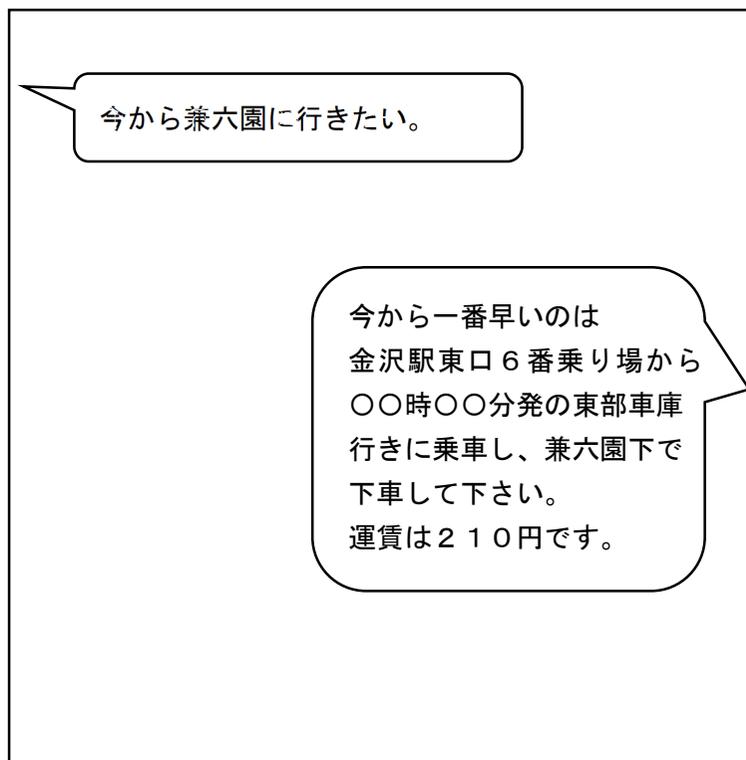
(概要)

「のりまっし金沢」などに生成AIも見据えたチャットボットを導入することで、金沢来訪者自身が現在地から目的地までの公共交通利用に関する移動情報の他、リアルタイムな運行情報、観光情報も取得できるようにする。回答内容の正確性など技術的課題が多くあるが、具現化に向けて進めていく。

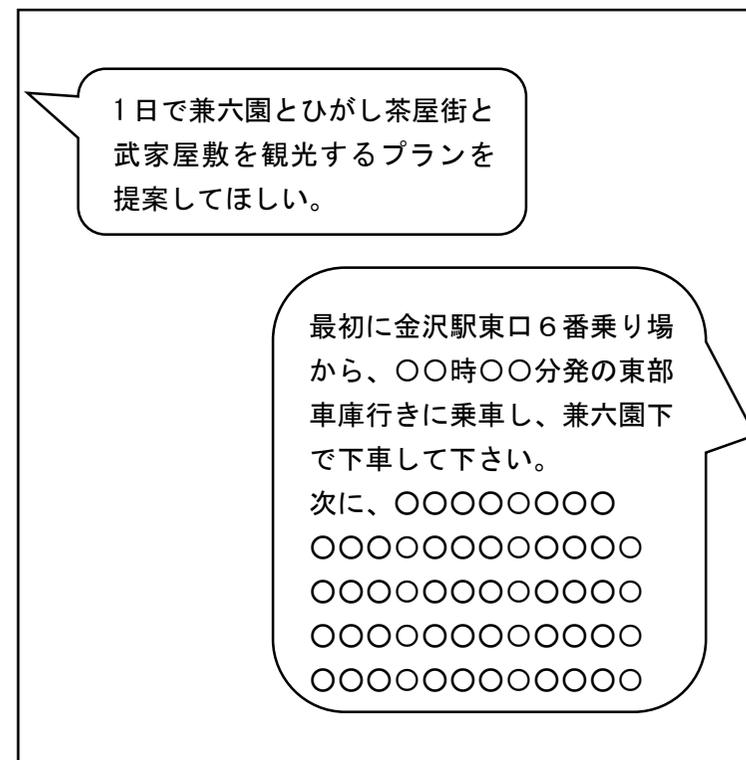
(得られる効果)

インバウンドを含む金沢来訪者が移動への不安なく快適に観光できる環境を創出するとともに、公共交通のイメージ向上及び利用促進に繋げる。

イメージ案①



イメージ案②



AIチャットロボットによる金沢来訪者への案内強化部会規程

(趣旨)

第1条 この規程は、金沢M a a Sコンソーシアム規約（以下「規約」という。）第13条の規定に基づき、金沢M a a Sコンソーシアム（以下「コンソーシアム」という。）として検討するプロジェクト（以下「プロジェクト」という。）の作業部会に関し、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 AIチャットロボットによる金沢来訪者への案内強化部会（以下「本部会」という。）は、コンソーシアムが今後優先して検討すべき事項のうち、A公共交通利便性の向上に関し検討することを目的とする。

(検討事項)

第3条 本部会は、次に掲げる事項を検討する。

- (1) AIチャットロボットによる金沢来訪者への案内強化に関する事。
- (2) 上記のほか、「A公共交通利便性の向上」に関し、本部会が必要と認める事項

(組織)

第4条 本部会は、部会長及び部会員で組織する。

- 2 部会長は、規約第13条第3項の規定に基づき、北陸鉄道㈱企画開発部部長をもって充てる。
- 3 部会事務局は、北陸鉄道㈱に置く。
- 4 部会事務局に部会事務局長を置き、北陸鉄道㈱企画開発部部長をもって充てる。
- 5 部会員は、北陸鉄道㈱、金沢市、㈱ホクリクコムで構成する。

(所掌事務)

第5条 部会長は規約第13条第3項各号に規定する事務を所掌する。

- 2 部会事務局長は、次に掲げる事項を所掌する。
 - (1) 会議運営事務及び庶務に関する事。
 - (2) 部会事務局の運営に関する事。
 - (3) 前2号に掲げるもののほか、本部会の運営に関し必要な事項

(報告)

第6条 規約第13条第8項の規定に基づく幹事会から報告の要請があった場合には、規約同条第9項に基づき、速やかに報告しなければならない。

附 則

この規程は、令和6年10月3日から施行する。